

産業機械事業

製品の高付加価値化や差別化戦略を進め、海外展開のさらなる加速により事業拡大を目指すとともに、コスト削減への取り組みを一層強化し、収益力の向上に努めていきます。



業界動向と当期レビュー

当事業は、X線異物検出機、金属検出機、重量選別機などの検査機器を主力製品としています。およそ8割が食品分野向けビジネスです。

食品の安全・安心に対する世界的なニーズの高まりを背景として、異物検出分野で高いマーケットシェアを獲得しています。このほか、薬品分野や化粧品分野では、金属検出機、重量選別機を提供しています。

当期は、2008年6月にタイに開発・生産子会社を設立し、現地生産を開始するなど、海外での事業展開および価格競争力の強化を図りました。さらに、国内各地で、生産ラインにおける品質検査ソリューションをテーマに「出前セミナー」を開催し、お客様と密着した営業活動を強化してきました。当上半期は需要が総じて堅調に推移したものの、当下半期に世界的な景気減速の影響が

ら、国内外の食品メーカー、とりわけアジアなどで設備投資抑制の動きが強まったことにより、売上高は129億80百万円(前期比4.5%減)となりました。営業利益は、円高による価格下落圧力などにより、5億96百万円(前期比26.8%減)となりました。

今期の事業戦略と業績見通し

当事業がターゲットとする食品市場や薬化粧品市場は、比較的景気低迷の影響が少ない安定したマーケットです。今後は、食品への異物混入有無を検出するX線異物検出機の高感度化をさらに追求するとともに、形状検査、数量検査などの多機能化を図り、アプリケーション強化による市場拡大を目指します。また、資材調達、製造工程の見直しを行い、コスト削減への取り組みを強化し、収益力の向上に努めていきます。

中長期的には、製品の高付加価値化、差別化戦略を進めるとともに、海外生産の本格化による海外市場への展開を加速させていきます。

なお、依然として不透明な世界経済の環境を見据え、今期の当事業の売上高は120億円(当期実績の7.6%減)、営業利益は4億円(同33.0%減)を予定しています。

X線異物検出機の機能

